



設立目的

当法人は、旧東京商船大学、旧神戸商船大学の卒業生有志が集まって、**海洋国家日本の海事意識を普及拡充**することを目指して、東京海洋大学所蔵の明治丸や海事教育資料等を活用して、広く一般の皆様へ海と船を理解していただくため、多様な活動が出来るよう特定非営利活動法人として、平成27年1月22日に立ち上げました。

今後は、広く一般の皆様の参加を得て活動範囲を広げていきたいと考えております。

事業内容

- 明治丸維持補修
- 明治丸の広報
- 明治丸ガイド
- 江東区主催街歩きツアーへの参加
- タッチングツアー
- 定期機関誌の発行
- 大学と地域社会との橋渡し

日本海洋塾のホームページ ==>

<https://kaiyou-juku.org/>



入塾案内のページ == == ==>

<https://kaiyou-juku.org/member/>



タッチングツアー



定期的に眼の不自由な方を対象にした明治丸見学会を開催しています。



≪=当日の様子が連続写真で観られます

街歩きツアー

所定の養成カリキュラムを修了した江東区民を中心とする有志が案内役(ガイド)を務め、江東区内の観光スポットや多種多様な地域資源を紹介するイベントです(事務局:江東区観光協会)。日本海洋塾は当該イベントを後援、明治丸ガイドとして参加しています。



街歩きツアー



明治丸グッズ販売



大皿、小皿、マグカップは明治丸で、竣工時船内で使われていた物のレプリカです。おそらく明治天皇が乗船された際にもこれらの食器が使われたものと思われます。

→実物は『明治丸』グッズコーナーでご覧下さい

日本初の船の重要文化財に 指定された明治丸



明治丸は、明治政府が英国グラスゴーのネピア造船所に燈台巡廻業務用に発注し、明治7年に竣工した鉄船(現在の船はすべて鋼船)で、翌8年横浜に回航されました。

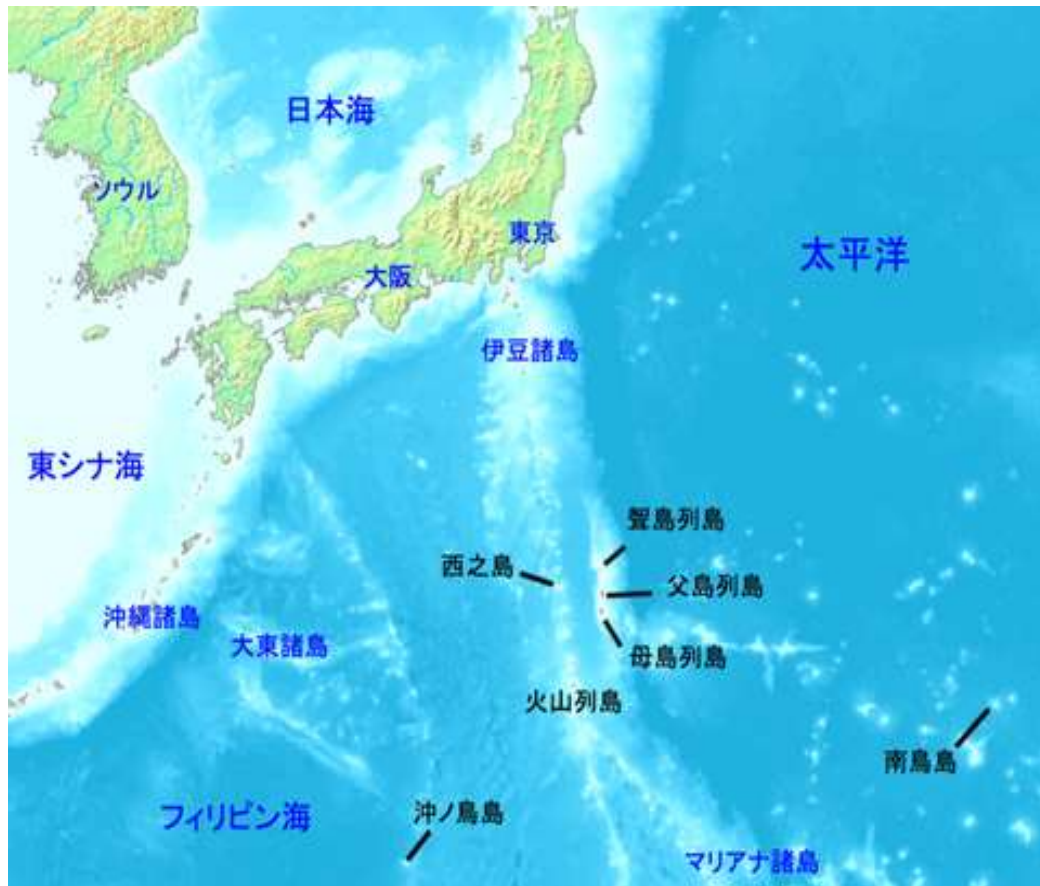
一等飛脚船同様の出来と言われたこの船は、特別室やサロンを備えた豪華な仕様の新鋭船で、単に燈台業務ばかりでなく、ロイヤルシッフの役目も兼ねていました。明治天皇はじめ多くの高官が乗船し、わが国近代の重要な場面で活躍しました。

昭和53年には、わが国に現存する唯一隻の鉄船であり、鉄船時代の造船技術を今に伝える貴重な遺産として、国の重要文化財に指定されました。船としての重要文化財指定は明治丸が初めてです。



明治丸に関して記載のWikipedia 明治丸 & 越中島キャンパス詳細PDF

明治丸と小笠原諸島領有権問題



明治丸はわが国近代の重要な歴史的場面で活躍しました。明治8年、小笠原諸島の領有権問題が生じた際に、日本政府の調査団を乗せ、**追ってきた英国船より早く小笠原に到達しました。このことによって、小笠原諸島はわが国の領土となったのです。**その後の沖ノ鳥島、南鳥島の領有を含め、日本は領海と合わせて世界第6位となる447万km²の排他的経済水域を確保することとなりました。その約3分の1に当たる約150万km²が東京都小笠原村に属しています。



← 小笠原領有を巡る秘話

明治丸と海の日



明治9年(1876)6月2日、明治天皇は東北・北海道御巡幸にお出かけになりました。埼玉・茨城・栃木・福島・宮城・岩手・青森の各県を御巡幸されたのち、7月16日青森から御召艦『明治丸』に御乗船され、函館を経由して20日横浜へ御帰着されたのでした。『明治天皇紀』によれば3日間荒波のため動揺はなはだしく、遅れて夜の8時すぎに入港したそうですが、明治天皇は終始“端然”としておられ、港で待ち受けていた人々を安心させたそうです。これを記念して昭和16年7月20を「海の記念日」として制定され、平成8年からは「海の日」祝日となったわけです。



< = 見学者の感想



< = 平成27年首相官邸からのメッセージ

竣工時の想像図



竣工当時の船体要目

船名	MEIJI MARU 明治丸	総トン数	1010.08トン 注2
船舶所有者	燈台局	全長	242ft (73.76m)
定繋港	武蔵國横濱	甲板長	223ft(68m)
船舶番号	675	幅	29ft2.5inch(8.9m)
信号符字	HBKF	深さ	21ft5inch(6.5m)
船級	Lloyd s '100A1 注1	主汽関	倒立型2連成往復動蒸気汽関2基
船種	補助帆付双螺旋汽船	ボイラー	前後端焚円缶式
帆装	二檣トップスル・スクーナー	石炭庫容量	速力10.5k't (250HP) で約12日分の容量

注1：船の等級を表すもので、日本で
最初にこの等級を取得した船

注2：ロイズ検査証書記載

現在



明治丸の見所



本船は、鉄材によってつくられています。それらを従来からの木材製の船体と同じように横式構造で組み合わせ、リベットで結合されています。

主甲板以下の船体は 8 枚の横隔壁で仕切られており、外板が破損して浸水があっても、十分な浮力を維持できる構造になっています。



一等客室区画の主階段、仕切り壁、テーブル、円形ソファー、鏡付飾り棚には、豪華な装飾がほどこされており、当時の船内装飾意識が覗われます。

サロンの照明には、ランプかろうそくが使われ、区画壁の柱の頂部に埋め込み式になっており、サロン側と客室側を照らすように工夫されています。





上甲板に設置されている航海用の機器類は、建造当時のものであり、英国の当時の工業技術水準を知ることができる。船首の錨鎖、揚錨機などは現代のものと構造的には変わっていません。船尾の操舵機は人力で舵を動かす形式のもので、操舵室から遠隔操作することが出来、操縦系統の故障(舵の故障は重大事故につながる)に備え、クラッチ、歯車の組み合わせなどで操舵手段が切替えられる構造になっています。



アカンサス(和名はあざみ(葉薊))は、地中海沿岸が原産地の耐寒性 大型多年草で、冬も青々と茂り縁起が良く、格調ある文様として装飾に使われており、古代ギリシャ・ローマの建築物に多く使われています。日本では、明治時代の西洋建築、現行一万円札、金沢大学の校章、東京芸術大学の校章、などに採用されています。このアカンサス装飾は、船首、船尾、一等客室区画に施されています。

アンカー（錨）の塔



商船教育発祥を記念して、昭和40年に85周年記念会により建立された。このアンカーは係留練習船としての明治丸をポンド内に定置する際に用いられたものである。アンカーの主幹は天の北極を指し、ストックは天の赤道を指しています。

百周年記念資料館

東京海洋大学百周年記念資料館は、東京海洋大学の前身の一つである東京商船大学が明治8年11月1日に隅田川の永代橋下流に係留した成妙丸を校船と定めて開学してから、昭和50年で100周年となったことを記念し、その中心事業として建築。当館は一般の海事資料館とは異なり、本学100年の歴史を軸とした商船教育史とその周辺の海事史を物語る資料を収集展示しています。



明治丸記念館



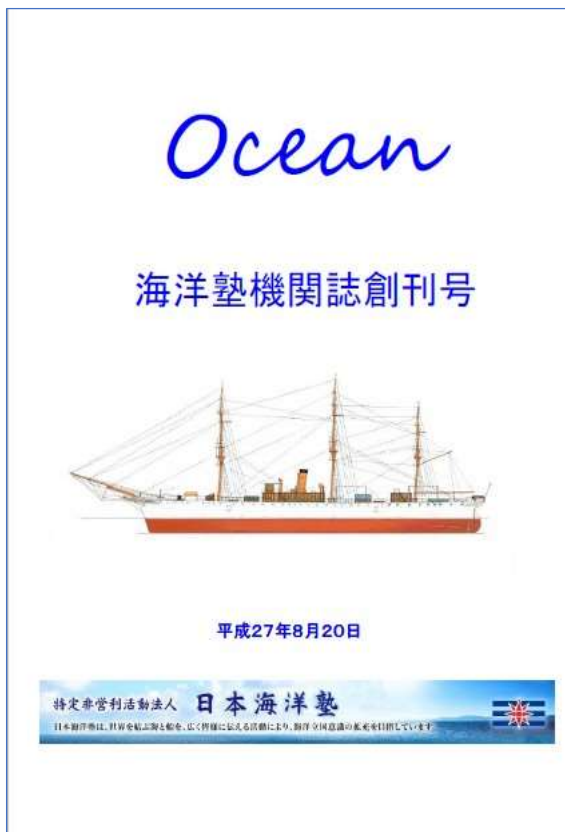
明治丸記念館は、東京海洋大学明治丸海事ミュージアム機構の施設として、平成28年3月に竣工し、平成28年7月18日海の日から一般公開を開始した。館内は展示室とセミナー室がある。展示室は、明治丸の歴史を5つのカテゴリーに分け、貴重な写真と文書などで解説しています。

定期機関誌（Ocean）発行

<https://kaiyou-juku.org/kikansi/index.html>



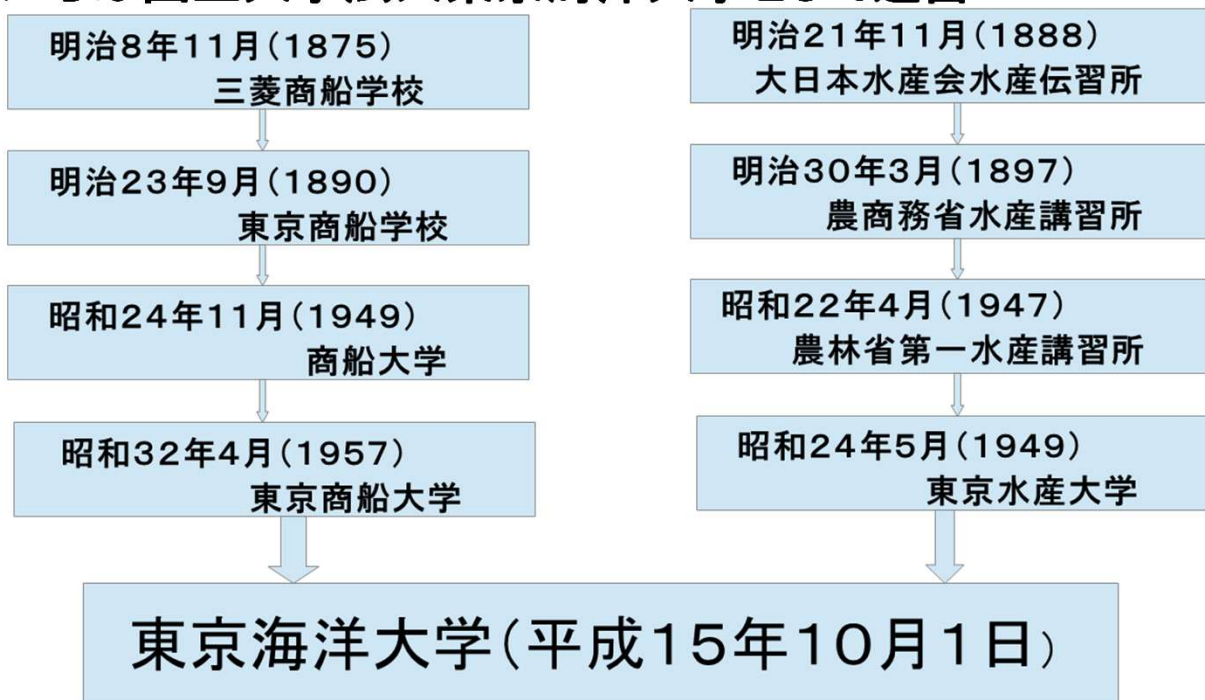
塾員相互の情報共有や啓発を目指して
定期的に機関誌を発行しています。



東京海洋大学(旧東京商船大学) 越中島キャンパスの紹介



東京海洋大学は平成15年10月1日、東京商船大学と東京水産大学を統合して設置された大学です。平成16年4月1日からは国立大学法人東京海洋大学として運営



詳細情報

現行学部

海洋工学部

海洋生命科学部

海洋資源環境学部

<https://www.kaiyodai.ac.jp/overview/organization/history.html>



←越中島キャンパスへのアクセス案内

越中島キャンパス全景



- | | | |
|-----------------|-----------------------|------------------|
| 1 重要文化財明治丸 | 2 一号館 | 3 越中島会館 |
| 4 先端科学技術研究センター | 5 第一観測台 | 6 第二観測台 |
| 7 G.E.O.ラムゼー巧徳碑 | 8 招魂碑 | 9 精神不滅碑 |
| 10 菅船長記念像 | 11 植樹記念碑 | 12 百周年記念資料館 |
| 13 アンカーの塔 | 14 スクリュープロペラ・第一世汐路丸の錨 | 15 玄武岩・鍾乳石 |
| 16 整留練習船明治丸記念碑 | 17 全天候型救命艇 | 18 駆逐艦「あけぼの」シリンダ |
| 19 復水器・循環水ポンプ | 20 明治丸記念館 | |



案内詳細PDF



キャンパス紹介
動画その1



キャンパス紹介
動画その2



キャンパス紹介
動画その3

一号館 [登録有形文化財(登録:
平成9年12月12日、登録番号:
第13-0003号)]



越中島会館 [登録有形文化財(登録:
平成9年12月12日、登録番
号:第13-0004号)]



一号館は関東大震災後、昭和5年(1930年)12月起工し、昭和7年11月に東京高等商船学校本館(事務室および教室)として竣工した。越中島会館は旧水産講習所の建物で、昭和7年から工事を始め、昭和8年5月に水産講習所本館として竣工。昭和20年に米軍が接收。昭和25年11月、警察予備隊(現自衛隊)が使用。昭和35年5月旧水産講習所地区が防衛庁から東京商船大学に所管替えとなった。その際、旧水産講習所本館を東京商船大学2号館とし、平成7年2月越中島会館と名称変更しました。

[登録有形文化財(登録:平成9年12月1
2日、登録番号:第13-0006号)]

第一観測台



[登録有形文化財(登録:平成9年12月12
日、登録番号:第13-0007号)]

第二観測台



明治36年6月竣工。現存する日本最古の天文台と推定されている。商船教育においては天体の計測による船舶の位置を知ることが重要であり、天文学は必須であった。航海用天体暦び航海天文学教育用として使用された内部には当時東洋一といわれた最新鋭赤道儀望遠鏡(Theodolite)を備え、望遠鏡は分銅式によって天体の運行に等しい速さで回転するようになっていました。

先端科学技術研究センター



昭和7年7月1号館と同時期に図書館として竣工。図書収容能力は約8万冊。昭和20年に米軍が接收。昭和25年11月、警察予備隊が使用。昭和31年越中島校舎地区が防衛庁から返還。再び図書館として使用。昭和43年以降大学事務局として使われたが、平成15年東京海洋大学となった時以来、先端科学技術研究センターとして使用

されています。

菅船長記念像



菅源三郎船長は、明治16年2月24日に愛媛県越智郡菊間町(現・今治市菊間町)に生まれた。商船学校を明治41年に卒業し、第二次世界大戦勃発時には長崎丸の船長として揚子江河口にてアメリカの客船プレジデントハリソンを発見し、これを追跡してかく座(船を浅瀬に上げること)させた。しかし、昭和17年5月13日に長崎丸は長崎港外で機雷に接触して沈没。菅船長は最後まで船橋にあって指揮をとったが、死者・行方不明者39名を出した。事故後も遭難者を慰問し、善後処理に奔走したが、5月20日に他界された。菅船長石像は昭和20年(1945年)1月に菅船長頌徳会によって建立されました。

G.E.O.ラムゼー功德碑

ラムゼー船長は、明治8年(1875年)に一等航海士として来日。明治9年6月1日に三菱商船学校(本学部の前身)の運用学教員として教壇に立ち、学生に航海術を教えた最初の先生で、明治15年4月に三菱商船学校が、官立に移行されることに伴い、惜しれつつ学校を去ることになった。この碑は、明治19年(1886年)3月の彼の没後1周年にあたり門弟達が建てました。

